

子どもたちに「言葉の面白さ、言葉の力」を伝えたい

～「放課後NPOアフタースクール」の活動～

放課後NPOアフタースクール代表理事

平岩 国泰

寄稿記事



◆プロフィール

1974年東京都生まれ。1996年慶應義塾大学経済学部卒業。2004年長女の誕生をきっかけに、“放課後NPOアフタースクール”の活動開始。活動開始以降“アフタースクール”には5万人以上の子どもが参加。日本の子どもたちの「放課後からの教育改革」に挑む。2013年より文部科学省中央教育審議会ワーキンググループ委員

1. 「放課後NPOアフタースクール」の活動とは

私たちは「アフタースクール」という取り組みを行うNPO法人です。

アフタースクールとは、放課後の小学校で行う子どもたちの取り組みで、「学童保育」と「プログラム」の2つの機能を併せ持つのが大きな特徴です。

一般の学童保育は1～3年生までで、保護者の就労証明が必要など、利用者制限が多いのですが、私たちのアフタースクールは、原則その小学校の子どもであれば誰でも通うことが出来ます。1～6年生までどんな頻度で通っても構いません。

このようなアフタースクールを運営出来るのは、「学校施設を活用している」からです。学校はまず何より安心で・安全な場所です。移動の時間がないので、それに伴うリスクも解消することが出来ます。そして、グラウンド・体育館・音楽室・理科室・家庭科室など豊かな「場所」という資源もありますので、子どもたちが望むほとんどの活動をプログラムとして実施出来ます。

プログラムを支えてくださるのが地域の「市民先生」です。地元の大工さんと家を建てる、主婦の方に料理を教えていただく、大学生とスポーツをする、

そんなことが日常的に行われています。また、企業も市民先生としてキャリア教育になるようなプログラムを提供していただけます。

元々はアメリカで見て来たアフタースクールを日本でも社会のインフラとして成立させたいと活動しているのが、私たち「放課後NPOアフタースクール」なのです。



放課後NPO
アフタースクール
アフタースクール、全国で！

2. アフタースクールで実際に行われた日本語に関するプログラム

アフタースクールのプログラムで、「日本語」をテーマにしてプログラムを行いました。市民先生は地域のシニアの方です。子どもたちに「言葉の面白さ、言葉の力」を感じてもらおうと色々プログラムの内容を企画し、「紙芝居」と「絵本」の言葉のないものを用意しました。

第1週は「紙芝居」。お手製の紙芝居を見ながら、子どもたちが自由に話を考えます。絵を見ながら次々と色々な話の案が浮かびます。そして紙芝居の絵を並べてそのタイトルも一人ひとり考えました。

「ねらわれたおひめさま」

「もりのぼうけん」

「まほうのくびかざり」

「ちょっとかわったロミオとジュリエット」

などなど全員全く違うタイトルになりました。でもどれも成立しています。面白いですね。

第2週は「絵本」。これまたお手製の絵本を用意し、物語を考えました。絵だけのものに「言葉」が加わると本に命が吹き込まれるようです。言葉だけでドキドキの冒険劇にも、ロマンチックな物語にもなります。書いた物語を子どもたちに発表してもらいました。

どんぐりの木が主役の「どんちゃん物語」や鳥が主役の物語、はたまた季節が主役の物語まで、これまた誰ひとり同じものはない世界に一つだけの絵本が出来ました。

「かみしばいで、絵だけを見て自分で考えるのがおもしろかった。」

「本を書いてみて、自分でこんなに書けるのかとおどろきました。」

こんな感想が聞こえてきました。

子どもたちに「言葉の面白さ、言葉の力」が伝わったと感じます。

アフタースクールを通じて、これからもぜひ市民先生とともに伝えていきたいと思っています。



3. 日本語検定に期待しています

日ごろ子どもたちと接していて、諸外国の子どもたちと比べて、「自己肯定感」が低いことが気になっています。自分のことを肯定したり、将来に希望を抱いていたりする子どもが極めて少ないと言われるのが日本の子どもたちです。

同様に、日本の子どもたちが自国の文化を理解することも極めて重要だと思っています。それらの学びの基礎となるのはやはり「言葉」です。人間は言葉でものを考え、言葉で相手とコミュニケーションをします。その意味で「日本語検定」は本当に大切な取り組みだと感じています。

ぜひ、アフタースクールの子どもたちにも、楽しみながらチャレンジしてもらいたいと思っています。

